

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICH

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)モアグレースー宮神山	階数	地上14階、地下0階
建設地	一宮市神山二丁目14番2、3、7	構造	RC造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	200人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年9月 予定	評価の実施日	2018年4月1日
敷地面積	1,745 m ²	作成者	八木 俊典
建築面積	392 m ²	確認日	
延床面積	3,741 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

環境品質 G (0-100) vs 環境負荷 L (0-100)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算: ①参照値 100%, ②建築物の取組み 69%, ③上記+②以外の 69%, ④上記+ 69%

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 重点項目

①地球温暖化への配慮

4.2

③敷地内の緑化

1.0

外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積) **16.8%**

建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積) **0.0%**

②資源の有効活用

3.2

④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料> なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 (仮称)モアグレースー宮神山

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:
 ■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版:
 CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部						住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数			
Q 建築物の環境品質											3.1	
Q1 室内環境											3.4	
1 音環境											3.3	
1.1 室内騒音レベル												
1.2 遮音												
1 開口部遮音性能												
2 界壁遮音性能												
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)												
4 界床遮音性能(重量衝撃源)												
1.3 吸音												
2 温熱環境											2.8	
2.1 室温制御												
1 室温												
2 外皮性能												
3 ソーン別制御性												
2.2 湿度制御												
2.3 空調方式												
3 光・視環境											3.8	
3.1 昼光利用												
1 昼光率												
2 方位別開口												
3 昼光利用設備												
3.2 グレア対策												
1 昼光制御												
3.3 照度												
3.4 照明制御												
4 空気質環境											3.8	
4.1 発生源対策												
1 化学汚染物質												
4.2 換気												
1 換気量												
2 自然換気性能												
3 取り入れ外気への配慮												
4.3 運用管理												
1 CO ₂ の監視												
2 喫煙の制御												
Q2 サービス性能											3.6	
1 機能性											4.3	
1.1 機能性・使いやすさ												
1 広さ・収納性												
2 高度情報通信設備対応												
3 バリアフリー計画												
1.2 心理性・快適性												
1 広さ感・景観 (天井高)												
2 リフレッシュスペース												
3 内装計画												
1.3 維持管理												
1 維持管理に配慮した設計												
2 維持管理用機能の確保												
2 耐用性・信頼性											3.3	
2.1 耐震・免震・制震・制振												
1 耐震性(建物のこわれにくさ)												
2 免震・制震・制振性能												
2.2 部品・部材の耐用年数												
1 躯体材料の耐用年数												
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔												
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔												
4 空調換気ダクトの更新必要間隔												
5 空調・給排水配管の更新必要間隔												
6 主要設備機器の更新必要間隔												
2.4 信頼性												
1 空調・換気設備												
2 給排水・衛生設備												
3 電気設備												
4 機械・配管支持方法												
5 通信・情報設備												

3 対応性・更新性				3.0	0.29	3.1	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり				-	-	3.2	3.2	0.50	
1 階高のゆとり			階高2.9m以上3.0m未満				4.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ							2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり							3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	1.00				
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17				
2 給排水管の更新性				3.0	0.17				
3 電気配線の更新性				3.0	0.11				
4 通信配線の更新性				3.0	0.11				
5 設備機器の更新性				3.0	0.22				
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30				1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30				2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50				-
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50				-
LR 建築物の環境負荷低減性				-	0.40	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	-	3.1
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	0.33				3.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.17				3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.96	3.4	0.33				3.4
4 効率的運用				3.0	0.17				3.0
集合住宅以外の評価									
4.1 モニタリング									
4.2 運用管理体制									
集合住宅の評価				3.0	1.00				
4.1 モニタリング				3.0	0.50				
4.2 運用管理体制				3.0	0.50				
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	-	3.2
1 水資源保護				3.4	0.15				3.4
1.1 節水			節水型水栓、節水型便器を設置	4.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	1.00				
2 雑排水等利用システム導入の有無									
2 非再生性資源の使用量削減				3.3	0.63				3.3
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.20				
2.5 持続可能な森林から産出された木材		独自	集成材	2.0	0.05				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体と仕上材、設備が容易に分別可能	5.0	0.24				
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22				3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68				
1 消火剤									
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	1.00				
3 冷媒									
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率69%	4.2	0.33				4.2
2 地域環境への配慮				3.0	0.33				3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25				
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制		独自		3.0	0.25				
3 交通負荷抑制		独自	適切な量の駐車場、駐輪場、複数の導入路を確保	4.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25				
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33				3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40				
1 騒音		独自		3.0	1.00				
2 振動		独自							
3 悪臭									
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40				
1 風害の抑制				3.0	0.70				
2 砂塵の抑制									
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30				
3.3 光害の抑制				4.4	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			チェックリストの過半を満たし、屋外広告物照明は行わない	5.0	0.70				
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				

重点項目スコアシート

(仮称)モアグレースー宮神山

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			4.2
LR3-1 地球温暖化への配慮	4.2	0.10	
② 資源の有効活用			3.2
Q2-2 耐震性・信頼性	3.3	0.09	
Q2-3 対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2 非再生性資源の使用量削減	3.3	0.19	
③ 敷地内の緑化			1.0
Q3-1 生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:16.8%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			1.0
		(評価ポイント)	
Q3-2 4) 地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2) 地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)モアグレースー宮神

計画上の配慮事項	
総合	潜熱回収型給湯器、LED照明を採用することにより、設備システムの高効率化に努めた。
Q1 室内環境	昼光率2.0%以上で、室面積の1/6以上の自然換気有効開口面積を確保することにより、採光・通風に考慮した。
Q2 サービス性能	劣化対策等級3取得し、更新間隔の長い建材・配管を採用した。
Q3 室外環境(敷地内)	緑地を設けることにより、良好な景観を形成した。
LR1 エネルギー	BEI=0.96で一次エネルギー消費量に関する基準に適合。
LR2 資源・マテリアル	節水機器、節水型便器を採用し、水資源の保護に配慮した。
LR3 敷地外環境	駐車場への導入路を分けることにより、周辺道路の渋滞の緩和に考慮した。
その他	特になし

